※ご講演して下さったお話の内容をまとめたものです。もしも、何かの機会でご紹介される場合などは、熊谷先生のご講演の内容である旨を添えた上でお願いいたします。

題目「義務教育の家庭科、家庭分野における 資質・能力の育成を目指して」

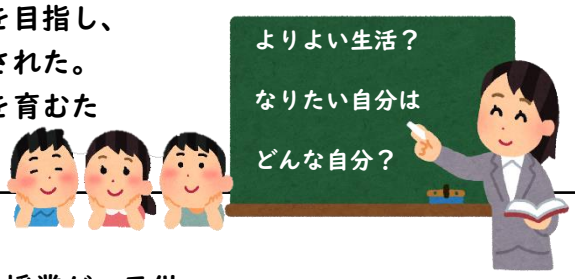
文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官

熊谷 有紀子先生

ご講演の概要

主なテーマは、家庭科の授業における資質・能力の育成を目指し、学習指導要領の重要性とその着実な実施に焦点を当てて話された。家庭科教育における授業の質の向上と、子供たちの実践力を育むための指導法の改善についてのお話であった。



主なポイント:

◉学習指導要領の重要性: 学習指導要領とその解説に従った授業が、子供たちの資質・能力の育成において重要であることが強調されている。

◉課題と改善点: 学習指導要領の「着実な実施」が重要であり、誤った解釈や「型」にはまった授業が問題視されている。また、子供主体の授業作りが進んでいる一方で、課題の設定や解決方法が単調になりがちな点が指摘されている。

◉問題解決的な学習の充実: 子供の主体的な学びを引き出すため、課題の設定や解決のプロセスが重視され、評価・改善の場面でも子供の意欲を引き出す工夫が求められている。

◉教師の役割: 教師が自分の価値観や都合を優先するのではなく、子供の言葉や考えを尊重し、主体的に課題解決に取り組む姿勢が重要とされている。

ご講演内容（実際に当日お話下さった内容をまとめさせていただいたものです）

◉はじめに

１．≪成果≫

■なぜ、学習指導要領が大切なのか。学習指導要領及び解説を読み、それに沿った 授業を行うことの大切さが伝わってきた。

■一連の学習過程を参考にしながら、問題解決 的な学習を取り入れた授業が一般的になってきた。

■課題の設定をはじめ、子供主体の授業づくり に取り組む教師が増えてきた。

２．≪課題≫

■学習指導要領の「着実な実施」が必要な学校、先生がいる →子供に資質・能力が育成されない。

■問題解決的な学習が「型」になってきている。

■子供にとって必要感のある課題が設定され、その課題の解決に向けた授業が展開されていない。

→課題を解決する力が養われない

３．学習指導要領のよりよい実施

「着実な実施」を基盤とした日々の授業の質の向上

次のような状況はないか？

・学習指導要領を 「理解している」つもり

・学習指導要領の 誤った解釈

・誰も行っていない 題材の開発 など

改善に向けて

・学習指導要領を **再度確認**する

・日頃の授業を ブラッシュアップする

（授業展開・発問・ワークシート・評価

・研修会への積極的な参加） など

４．なぜ、再確認する必要があるのか？

《学校教育法施行規則第五十二条》 小学校の教育課程については、この章に定めるもののほか、教育課程の基準として文部科学大臣が別に公示する小学校 学習指導要領によるものとする。

※中学校は第七十四条

「資質・能力」→学習指導要領の着実な実施

〇知識及び技能　〇思考力、判断力、表現力等 〇学びに向かう力、人間性等

三つの柱、それぞれを個別に育成するのでは なく、偏りなく実現されるようにする。

５．答えは子どもの姿にある

学習指導要領の着実な実施

この内容では足りない！ あれも教えなきゃ、これも教えなきゃ！

学習指導要領の目標や内容が置き去りになり、発展した授業内容が展開され始める

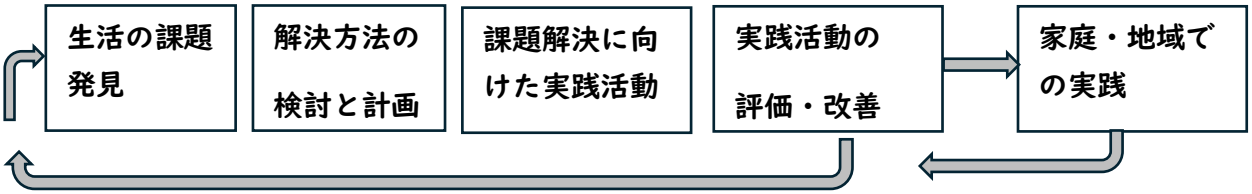
小学校で中学校の学習内容　中学校で高等学校の学習内容

教師の「オリジナル」な学習内容

育成すべき資質・能力は一体どこへ？？？

６．問題解決的な学習を充実させる

学習過程の参考例

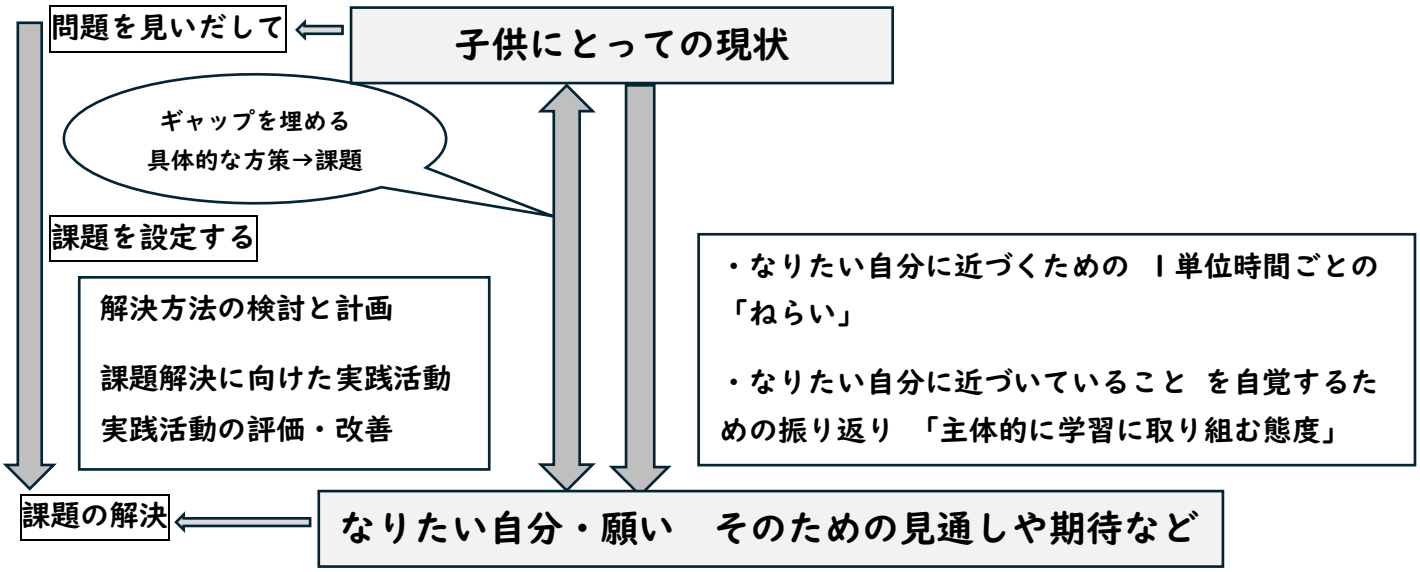


「型」に沿ってやっていくうちに・・・

■生活の課題発見（問題を見いだして課題を設定する）が難しい

■評価・改善の場面がワンパターンになる

７．「生活の課題発見」が難しい



８．「評価・改善」の場面がワンパターンになるということはないか？

●子供にとって、解決の必要がある課題が設定 されているか？

グループでの交流、全体での 共有の必要感はあるか？

→教師の都合で行っていないか？

●子供に解決の必要感が生まれる授業づくりを 目指す必要はないか？

例）評価・改善の場面 「自分の取組を評価してもらいたい」「友達の考えを聞いてみたい」

９.「問題解決的な学習」の授業づくり

＜ポイント＞

●「教師の言葉」ではなく、常に「子供の言葉」で考える

●「目指す子供像」は題材の振り返りで子供が書く ／述べる言葉

●設定した「課題」について、常に「課題の解決」を意識 して取り組めるようにする

→「課題を解決するための計画」

→「課題を解決するための実践」

→「課題を解決するための評価・改善」